



沖縄大学図書館

第44号

2007.4.1

館報 南十字星

発行：沖縄大学図書館

〒902-8521

沖縄県那覇市字国場555

TEL (098) 832-5577

(館報 南十字星)

FAX (098) 834-1127

新刊紹介

『中国製造業の競争力』

(信山社 2007年発行)



人文学部教授 陳 晋

私は、長年、中国自動車産業における企業の成長戦略と競争力の蓄積に関する研究に携わってきた。そうしたなか、中国自動車メーカーの競争力がなぜ蓄積されなかったのかについて検討しているうち、中国の家電とITメーカーが急成長し、グローバル市場で世界の大手企業と競い合うまでに競争力を蓄積してきたことに気がつきはじめた。そして、なぜ、ともに政府の産業保護や政策支援を受けながら、中国の企業同士の間の競争力が、こんなに大きな格差が生まれてきたのか、中国の家電とITメーカーの競争力は、いかにして蓄積されてきたのかに関心を持つようになってきた。

もちろん、製品の構造が違うのだから、開発や生産に関する企業の能力蓄積に要する時間も違ってくる。しかし、上述した格差の形成要因について考えれば考えるほど、製品構造以外の要因が大きいことに気づいた。そこで、私は、製品構造の視点では説明しきれない中国国内の特殊事情、たとえば各産業の発展の歴史、産業内の競争の度合い、各産業管理部門の政策の差異、各産業における企業の形態、行動パターン、組織慣性および上位メーカーの戦略構築過程など、中国にしか存在しない具体的な競争力構築の要因を探ってきた。

日本学術振興会科学研究費補助金などの研究支援を受けて、広範囲な資料収集を行いながら中国の産業や企業の現地調査を実施した。これまでの8年間、数十の中国現地企業、産業管理部門、研究機関を回り、また関連する日本や韓国、台湾、東南アジアの企業にも直接足を運び、実証のためのデータ収集やヒアリングを行った。そのような調査をもとに、本書は、日本企業の中国市場への進出戦略とその成功要因について考察し、日本企業にも有益なものとなるよう考慮しながら、企業戦略論の枠組において中国製造業の競争力の明暗を明らかにしたのである。

本書の構成は以下の通りである。まず第1章では、中国の自動車と家電産業・企業に関する先行研究を概観し、本書の研究視角と枠組を提出した。そして第2章では、家電メーカーと自動車メーカーの競争力蓄積の背景を示すために、政府の政策や市場環境の変遷について明らかにした。第3章と第4章では、自動車産業における産業組織の変化と上位メーカーの競争力の蓄積、およびトップメーカーである第一汽車集団の戦略構築を、第5章と第6章では家電産業における産業組織の変化と上位メーカーの競争力の蓄積、およびトップメーカーである海爾集団の戦略構築を分析した。その上で、第7章では中国自動車と家電メーカーの外部環境要因や業界競争の度合い、企業戦略構築過程に関する総合的な比較を行なった。

つづいて、第8章では、国内生産が急速に成長し、輸出を拡大しながら海外のM&Aや拠点拡張活動をも積極的に展開している中国の上位ITメーカー（聯想集団と華為技術有限公司）の競争力の蓄積と海外進出のプロセスを観察し、その成功要因を分析した。そして、最後の補章では中国市場に進出し、かつ成功しつつある日本のエアコンメーカー（ダイキン工業株式会社）と乗用車メーカー（本田技研工業株式会社）を取り上げ、日本企業の中国市場での戦略策定と戦略実行を観察し、その成功の要因を明らかにした。この章を、本書で解明した中国産業・企業の内部事情と比べてみれば、日本企業の中国市場での成功パターンを深く理解することができると思われる。それは、また中国に進出する他の日本企業にとっても有益な参考となるであろう。

この研究と出版に際しては、日本学振会の科研費などのほか、沖縄大学からも多大な支援を受け、刊行奨励費をいただいた。あわせて心から感謝の意を表したい。

高橋信 著、トレンド・プロ マンガ制作

『マンガでわかる統計学』

(オーム社 2004年発行)



法経学部准教授 田村 三智子

私が大学生の頃に学んだ統計学のテキストには、最初にギリシャ文字の読み方一覧表（アルファ、ベータ、ガンマ、デルタ…）が載っていて、続いて難解な数式がずらりと並んでいました。これが理解できないと統計学の単位は取れないのかと、テキストを数ページめくっただけで、目の前が真っ暗になったものです。もしもみなさんのなかに、理数系が不得意だから文系大学である沖縄大学に進学してきたという人がいたら、その人はまず間違いなく、あのテキストを見た時点で、統計学を学ぼうとする意欲を失ってしまうことでしょう。

そんな方に是非お勧めしたいのが、『マンガでわかる統計学』です。これは非常に良くできた統計学の入門書です。数式は出てきますが、本当に、とてもわかりやすく解説してあります。

内容は7章まであり、各章は「マンガ部分」「マンガ部分を補足する文章部分」「例題と解答」「まとめ」で構成されています。

とりあえず、マンガ部分だけを、ぱらぱらと読んでみてください。アンケートはがき、ラーメン屋、ボーリングのスコア、テストの点数などといった、非常に身近な例を用いて、度数分布やヒストグラム、平均値、標準化、確率などの説明がなされています。出てくる数式を計算するのが面倒くさくなったら、計算するのは主人公のルイちゃんに任せて、読み飛ばしてかまいません。実際に私たちがなにかデータを分析するときには、面倒な計算はパソコンにさせればいいのですから、どうしてこういう考え方をするのか、どうしてこんな式になるのかだけ、しっかり押さえておけば十分です。

もちろん、本気で統計学を学んで、専門家になろうと思うのなら、ギリシャ文字からも数学からも逃げるわけにはいきません。電卓すら使わずに計算できる力も必要となるかもしれません。でも、みなさんの多くは、統計学を教養として身につければ十分なのであって、なにも理数系の学生が学ぶようなハイレベルな数学の世界は、とりあえずは必要ないのです。

マンガ部分を、たとえ計算を全部飛ばして読んだとしても、統計学の基礎知識は身につきますが、余力があれば、マンガ部分を補足する文章部分も読んでみましょう。マンガ部分を理解していれば、十分読み進めることができますし、しっかり理解できれば、知識にぐっと深みが増します。本当に難しい部分の解説は、「そういうものなので、丸覚えしましょう」ですませられていたりもしますが、まさにその通り。それで十分です。

そして、統計学って面白いな、または、この程度のマンガなら読めるぞと思ったら、続編の『マンガでわかる統計学 回帰分析編』、『マンガでわかる統計学 因子分析編』も読んでみてください。因子分析編では、ルイちゃんと山本さんのその後が分かります。

この2冊も、ややこしい計算部分は読み飛ばしてかまいません。文字の多いページが理解できないからといって、落ち込む必要もありません。数式を覚える必要だってありませんよ。忘れてしまったら、また読めばいいのです。

気軽に、手軽に、統計学を学んでみたい方は、是非ご一読下さい。

フランク・シルマッハー 著 佐藤正明 訳

『老人が社会と戦争をはじめるとき
超高齢化社会をいかに生きるか』

(ソフトバンク クリエイティブ 2005年発行)



人文学部講師 玉 木 千賀子

著者のフランク・シルマッハーは自然・科学部門を担当するドイツの新聞編集者。学者やジャーナリスト、芸術家たちと老いの問題を語りあうことを通して生まれた著書であると述べている。2050年にはヨーロッパ諸国の65歳以上人口比率が軒並み30%前後に達することが予測されている。老化する社会のなかで老化する世代に属する者が、将来どのような状況に置かれるのかということをも人口学的データ、ライフコースの視点、老いに関する自他のイメージ、医学など異なる切り口から推論している。

少子化によって過疎化したドイツ東方ではそれまでの居住市域に動物たちが侵入し、自然が戻ってくる。廃村や学校の閉鎖、労働時間の延長、年金の縮減。「数多くの老人がほんのわずかな若者と生きる」社会では、老人に係るコストがかさみ、「数が多くなりすぎた」と言われ、「強制的安楽死を行なうべきか」という議論を耳にし、「病院で過ごす数週間も問題視される」。2080年にはドイツの人口は半減し、多数の移民を受け入れることによって維持されるだろうと著者は推測する。このような内容にドイツの国民が驚き、賛否両論が巻き起こったということは想像に難くない。著書は、自らが知り得た情報を専門家だけでなく多くの市民に知らせることによって問題の深刻さを人びとが共有し、その対策にひとりひとりが参画する—「社会との戦争をはじめるといふことが必要だと主張する。

日本に暮らす私たちは、「他国のことだ」と呑気に構えていてもよいのだろうか。次のデータは決してそうではないことを示している。2003年の合計特殊出生率はドイツ1.34人に対して日本は1.29人、2050年の65歳以上人口比率（推計）はドイツ31.0%に対して日本35.7%。この数字は日本がもっと深刻な状況に置かれていることを示している。「統計という高齢者とは、たんに

年金生活に入るひとを指している、老年人口構造指数によって見積もることができるのは、扶養者と非扶養者との割合にすぎない」と著者は述べて、統計上のデータはそれが私たちにどのような影響を及ぼすかということをも的確に伝えるのは難しいと指摘する。確かに高齢者福祉の文献に統計上のデータが示されたうえで「少子高齢化が人びとの生活に及ぼす影響は今後さらに深刻なものとなるだろう」と指摘されていたとしても、さして気にとめることもなく読み過ごしている。「高齢者をとりまく社会が変化し、それが人目につくのはだいぶ時間が経過してからだ」—例えば、介護保険制度のしくみ（高齢者の心身状況を画一的な尺度に基づいて評価にしてサービス内容・量を決定する）が自らの望む暮らしを保障するものではないことに気づくのは、自分がその当事者になってからということが多い。私が社会福祉の現場で援助実践に携わっていた頃、「保険料をちゃんと支払い続けてきたのに、そんなはずではない」と憤る利用者に、返す言葉をみつけることができないということを度々経験した。少子高齢化が経済や社会システムに深刻な影響を及ぼすだろうということは誰もが感じている。しかし、それを我が身に引き寄せて考える人がどの程度いるだろうか。多くは先述したように、その状況に直面して初めて気づくのではないだろうか。私自身、これまでの経験から自分の老後がそんな生易しいものではないと薄々感じてはいるが、もっと現実

は厳しいのかも知れない。自分の老後として考えたくもない状況を想定し、それを避けるために今何をすべきかを考える。将来、「こんなはずではなかった」とつぶやくより、「あれは杞憂だった」と振り返ることができればその方がよいのではないかと感じた一冊である。皆さんにも是非おすすめしたい。

杉村太郎 著

『絶対内定』

(ダイヤモンド社 2006年発行)



法経学部法経学科4年次 砂川直人

私がお薦めする本は就職活動についての本です。三年生の終わり頃から始まる就活（就職活動）ですが、具体的にどういった活動をするのか分からない方がほとんどだと思います。それどころか、「自分はこういった仕事が向いているのか」「心の奥にある本音はどういう仕事を欲しているのか」「そもそもどんな仕事がしたいのか分からない」あらゆる悩みが出始める時期だと思います。

心配はいりません。私も悩みました。（いや、まだ内定を取ってないんで悩んでいる最中です。）むしろ何の予備知識もなく真っ白な状態で読むことをお薦めします。読むことで悩みは解決します。この本に出会う前までは、私は、夢とか将来とか全然描けていませんでした。だから「将来の夢は何ですか？」的なことを質問されるのが嫌で嫌で仕方がありませんでした。将来の仕事も、適当なところで就職できればいいかなと思ったり、いっそのこと誰かが決めてくれないかなあぐらい思ったりしていました。そんな時に出会ったのがこの本でした。読み進めるごとに、何度も何度も心が震える衝撃が体を走っていくのを感じました。

就活について書かれた本は多数出版され、本屋に行くと溢れ返っています。結構読んできました。どれも良い事は書いてあるのです。しかし心に届く衝撃はなく、実際に行動にうつすことはできませんでした。

でもなぜだろう、杉村太郎の言葉には、節々に感動を覚え目からウロコが落ちることがたくさんありました。

「絶対内定」という本は一冊ではありません。シリーズになっており、1冊目は、自己分析とキャリアデザインの描き方、2冊目はエントリーシート、3冊目は面接、4冊目は面接の質問、5冊目は即効テクニック、で伝えたいことが全て詰まっていて、それが、2006年版、2007年版、2008年版と更新されていきます。

1冊目は一番重要なことである、自己分析。

この本のなかでは更に自分を高めるという意味で「我究（がきゅう）」について書かれています。前半は、熱い言葉や、気持ちを奮い立たせてくれる自己啓発的な内容で、後半からは、いよいよワークシートとって実際に書く形式に入っていきます。私の場合はノートを買ってきて試しました。これを聞いてやる気をなくした人がいれば、全然心配いりません。前半の内容はページ数はあるものの、とても読みやすく本当に感動を覚えます。そして後半のワークシートを早く書いてみたいという気持ちにさせてくれるので大丈夫です。ワークシートの最初は、好きなことや嫌いなことから始まり、学生の頃の勉強のことや、家族のこと、恋愛のことなど、赤裸々に書いていき自分を知っていきます。これで自分のコアを探して、そして様々な角度で切り刻んで知った自分を高めていくことを目的としています。ここで大事なことは、恋愛など思っていることは、全てアウトプット、つまりノートに書くことが重要です。このワークシートを進めていけば、面接時の自己PRや志望動機も作れます。筆記試験対策や、小手先の就活スキル、面接時のマナーなど大事なものはありますが、この「我究」は超重要なことなので手を抜かないでください。

2冊目は「我究」によって見つけたコア（大切にしたい価値観）やエッジ（強み）などを効果的にエントリーシートに書く方法と、超難関企業に受かった先輩方のエントリーシートを載せています。

3冊目は面接編。面接官に自分のコアやウリなどを効果的に伝えるテクなど詳しく載っています。

4冊目は面接官の質問の意図です。

これを読んで本音でやりたいことを探せた人は本当に輝くと思います。私自身全然未熟ですが、この本をキッカケに立ち上がる就活仲間が同世代、そして後輩たちに増えればいいな、と思います。

小川洋子 著

『密やかな結晶』

(講談社 1994年発行)



人文学部国際コミュニケーション学科3年次 古川可夢以

消滅が静かにすすむ島で、小説家の「私」も言葉を、自分自身を確実に失っていった。この島の中では失うことが当然であり、そうでないものは異端である。人々は何をなくしたのかさえ思い出せない。ある朝、目覚めたら何かが消滅していて、その何かに関する記憶も一切失われてしまう。自分にとって何の感慨も価値も見出せなくなったモノたちは廃棄か焼却処分しなければならない。さもないと「記憶狩り」という秘密警察に連行され、どこかへ連れ去られたまま町に戻ってくるが出来なくなってしまうからだ。秘密警察の使命は完全なる消滅。そんな中、彼女の担当編集者が消失したモノの記憶を持ち続けられる特別な人であることを知り、その男性を秘密警察から匿うことになる。そこからこの物語は始まる。

消失後の人々は多少の違和感を覚えながらも、いつもの日常に溶け込んでいく。一見、異常に思える設定だが、それをただの「小説」と嗤えないリアリティがある。また、彼を必死に匿う情景はアンネフランクの日記を彷彿させ、消滅に立ち会った人々が消滅の対象となったモノたちを処分する行動は、例えばある人に寄り添っていたくても状況がそれを許さず、自分自身でつらい気持ちを忘れようとする。そんな心の動きに非常によく似ている。

著者、小川洋子の作品には一貫して「喪失」というテーマがある。「このまま少しずつ、身体が消滅していくのかしら。」これは本書の中の一文だ。それはこんなセリフへと続いていく。「考えたって考えなくたって、消滅はやってくるわ。逃げ道はないのよ。次はどこかしらね。耳？

喉？眉毛？残りの足と腕？それとも背骨？順番に一つずつ消えていって、最後には何が残るんだろう。いいえ、何も残らないのかもしれないわ。きっとそうよ。わたしが全部消えてしまうのよ。」

身体の一部が消えて、さらに次々に別の部分が消えていく。それは著者の他作品である「葉指の標本」にも描かれる身体感覚だ。

身体感覚が希薄になるのは、まさに今の時代の特徴であるように思う。バーチャル・リアリティに代表される新しいテクノロジー環境は、わたしたちの身体感覚をどんどん希薄なものにしている。小川洋子の描く身体感覚は、まさにそんな時代の感覚そのものである。

とはいえ、ただ身体が、記憶が消滅していくのではない。消えていくその瞬間に、わずかにそれは存在している。失うことによって初めてそれはかけがえのない結晶のように凝縮されて儚く輝き、人はその消失を誰に知られることもなく、密やかに忘れる。

消滅していくようで「ある」、しかし「ない」、そういう微妙な存在こそ、著者が描こうとする世界なのだ。そもそも人間の存在というのは、そういうものなのだろうと思わされる。

有機物であることの人間の哀しみをこれほどまでに美しく、的確な言葉で綴る著者に、膨大な書籍の中から巡り会えたことを幸運に思う。そして日本語のニュアンスの多様さや、危うさの中にある美しさを発見する。私が「言語」という不完全な意思伝達手段に不完全な記憶や想いを如何にして、留められるかということに対して興味を持つきっかけとなった一冊である。

野口喜則 著

『鏡の法則』

(綜合法令出版 2006年発行)



人文学部福祉文化学科2年次 町 田 由紀子

何故、人は鏡の前に立つのでしょうか？
そして何故、鏡を見ながら表情や自分の姿を映すのでしょうか？

人間は感情を持った生き物で、嬉しい・楽しい・辛い・悲しい等、その時々的心境は鏡に姿として映し出されていると思います。

日頃、平凡に生活を送る中で、親や兄弟のちょっとした言葉が自分の中に上手く受け入れられないことがあります。子供にも子供なりの悩みがあるように、大人にも大人なりの悩みがあるはずで、その悩みを自分しだいでプラスにもマイナスにも出来ると思います。

人は、周りにいる様々な人に出会い、助けられまた助け合いながら人生を送っています。この本は、そうした中で人に対する信頼性や尊敬、感謝の気持ちなどを改めて振り返る事ができる内容でした。

この本の中に「現実起きる出来事は、一つの『結果』です。『結果』には必ず『原因』があり、その原因は、あなたの心の中にあるのです。つまり、あなたの人生の現実、あなたの心を映し出した鏡だと思ってもらうといいと思います」と書かれていて、すごく考えさせられる言葉だと感じました。

同じく本文に「人生で起こるどんな問題も、何か大切なことを気づかせてくれるために起こる」という言葉もありました。思えば私の人生の中でも、何か問題が解決した後に大切な事に気づかされる、という事があったので共感しました。

自分では気づかない事を他人が気づかせてくれる、といった事は皆さんも日常生活の中で経験があると思います。その事で自分自身の考えを見直すのは、とても大切な意味を持つと思いました。

この本の主人公である栄子は、野球好きな息子優太が試合中エラーをしたせいで友達から「お前、運動神経がにぶ過ぎだぞ!」「お前はチームの足を引っばるから誘わん」などと言われ仲間はずれにされたりしているのに、親として何

もしてあげられない事で無力感に陥ります。また相談相手であるはずの夫に対しても「思慮の浅い人」「教養のない人」という認識を持っています。栄子自身は四年生大学を卒業しているのに、夫は高卒で言葉遣いもがさつです。読書が趣味の栄子ですが、夫は週刊誌くらいしか読みません。そういう背景から栄子は息子の優太に「夫のようになってほしくない」という思いがあったのです。

毎日の生活で周りに対して信頼する事を忘れていた栄子は、ある切っ掛けでそれを気づかされる事になります。それは父の存在でした。栄子は口うるさい父が嫌いで、20年以上もの間、ずっと父を許せない気持ちを持ち続けていました。しかし自分の子供である優太が次第に心を開いてくれなくなっていった時に、親としてのその辛さにはじめて気づかされます。そして「父に感謝できること」と「父に謝りたいこと」という気持ちが出てきたのです。その後優太も友達と仲直りすることができ、結局栄子にとっては優太の問題が父への信頼を築く切っ掛けになったのです。

私たちは人の欠点が見えた時、その人の良い面が見えなくなることがあります。

お互いに不安定な信頼関係だったり、かたよった思い込みを持ったままだと良い結果は出せません。大切なのは常に相手に対して信頼や尊敬、感謝といった心を忘れないことです。そして傷ついている自分を受け入れ、さらに他人を許せないと思っている自分を許すのです。こうして自己受容が出来てくると、今度は他人を許せる余裕も生まれてきます。

色々な人との出会いには、とても大切な意味があると思います。それは自分自身を向上させたり視野を広げたりする事にもなり得るし、その結果、知性が高まる事もあります。

みなさんもこの本を読んだら、何かに気づくかも知れません。ちょっと自分を振り返る事ができると思います。

新着図書案内(抄)

請求記号	書名	著者名	発行所
015.2 A87	図書館のプロが教える「調べるコツ」:誰でも使えるレファレンス・サービス事例集	浅野高史, かながわレファレンス探検隊著	新潮社
021.2 C92	クリエイティブ・コモンズ: デジタル時代の知的財産権	ローレンス・レッシング [ほか] 著	NTT出版
104 Ta26	魂の美と幸い: 哲学形式としてのエッセー	田島正樹著	春秋社
114 Ko27	人はなぜ働かなくてはならないのか: 新しい生の哲学のために	小浜逸郎著	洋泉社
210.6 Ta13 上	天皇と東大: 大日本帝国の生と死	立花隆著	文藝春秋
222.066 Ki24	広西移民社会と太平天国	菊池秀明著	風響社
290.7 C43	地域を調べ地域に学ぶ: 持続可能な地域社会をめざして	和田明子 [ほか] 編	古今書院
302.53 L57	アメリカの眩暈: フランス人哲学者が歩いた合衆国の光と陰	ベルナル=アンリ・レヴィ [著]; 宇京頼三訳	早川書房
323.14 Ke51	憲法	野中俊彦 [ほか] 著	有斐閣
326.14 Ka21	責任原理と過失犯論	甲斐克則著	成文堂
333.8 To17	トダロとスミスの開発経済学	マクル=ポドロ=ステファン・C=スミス著; OGD開発経済研究会訳	国際協力出版会
335.07 R28	リサーチ・マインド経営学研究法	藤本隆宏 [ほか] 著	有斐閣
336.91 G34	現代商業簿記講義	山本誠 [ほか] 著	中央経済社
369.16 So63	ソーシャルワーク記録の研究と実際	岩間文雄編著	相川書房
451.35 A41	不都合な真実: 切迫する地球温暖化、そして私たちにできること	アル・ゴア著; 枝廣淳子訳	ランダムハウス講談社
498.5 Ko38	沈まないトマト: 食の墮落で日本が危ない	小泉武夫, 永山久夫, 勝見洋一著	ジュリアン
518.8 O66	逆都市化時代: 人口減少期のまちづくり	大西隆著	学芸出版社
537.09 C46	中国乗用車企業の成長戦略	陳晋著	信山社出版
601.1 H19	地(じ)ブランド: 日本を救う地域ブランド論	博報堂地ブランドプロジェクト編著	弘文堂
689.4 Ka56	観光カリスマ: 地域活性化の知恵	日本観光協会編	学芸出版社
699.8 Te71	テレビと日本人: 「テレビ50年」と生活・文化・意識	田中義久, 小川文弥編	法政大学出版社
801.5 Ku27	空間表現と文法	青木三郎, 竹沢幸一編	くろしお出版
810.2 Y24	日本語の歴史	山口仲美著	岩波書店
827 R98	汉语快易通: 中級口語听力	刘立新編著	北京大学出版社
911.568 J76	女性たちの現代詩: 日本100人選詩集	麻生直子編	梧桐書院
933.7 Mu43	グレート・ギャツビー	スコット・フィッツジェラルド [著]; 村上春樹訳	中央公論新社
〈琉球弧関係〉			
R219.9 O52	オキナワ: 沖縄戦と米軍基地から平和を考える	石原昌家 [ほか] 編	岩波書店
R302 Me14	沖縄/地を読む時を見る	目取真俊著	世織書房
R302.224 W46	台湾デスティニー	渡邊ゆきこ著	ボーダーインク
R318 Ma87	琉球の「自治」	松島泰勝著	藤原書店
R612 Ta51	戦後沖縄農業・農政の軌跡と課題	高良亀友著	沖縄自分史センター
R673.7 Ky2	共同店ものがたり: 沖縄で100年続くコミュニティビジネス	吉江真理子著	伽楽可楽

(この案内は、2006年10月～2007年3月に受け入れた新着図書の抄録である)

貸出トップ20

(2006年10月～2007年3月)

順位	請求番号	タイトル / 著者名	貸出回数
1	913.6 G32	陰日向に咲く / 劇団ひとり著	16
2	R382 H55	沖縄からアジアが見える / 比嘉政夫著	11
3	327.01 A62	体験的憲法裁判史 / 新井章著	10
//	913.6 R47	東京タワー: オカンとボクと、時々、オトン / リリー・フランキー著	//
//	837.7 Pen 2	Babe: pig in the city / adapted from the novelization by Justine Korman and Ron Fontes; based on the motion picture screenplay written by George Miller, Judy Morris, Mark Lamprell; based on characters by Dick King-Smith; retold by John Escott	//
6	361.5 Ma81	日米文化の特質: 文化変形規則(CTR)をめぐる / 松本青也著	9
//	361.42 W46	国際感覚ってなんだろう / 渡部淳著	//
8	335.5 Ts85	バナナと日本人: フィリピン農園と食卓のあいだ / 鶴見良行著	8
//	913.6 I57	おろしや国酔夢譚 / 井上靖著	//
//	326 I89	伊藤真の刑法入門: 講義再現版	//
11	333.8 Su57	ODA援助の現実 / 鷺見一夫著	7
//	916 H55	情報の技術: インターネットを超えて / 日垣隆著	//
//	825 A24	Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 / 相原茂, 石田知子, 戸沼市子共著	//
//	816.5 To15	卒論を書こう: テーマ探しからスタイルまで / 榎木伸明著	//
//	323.14 A92	憲法 / 芦部信喜著	//
//	830.79 J24	1回で絶対合格英検2級 / ジャパンタイムズ編	//
//	369.26 Ta45	よくわかる地域包括支援センター必携ハンドブック / 高室成幸著	//
//	809.2 Ta34	3分以内に話はまとめなさい: できる人と思われるために / 高井伸夫著	//
//	367.68 Mi97	あした笑顔になあれ: 夜回り先生の子育て論 / 水谷修著	//
//	913.6 H55	手紙 / 東野圭吾著	//

図書館事情

2006年11月1日 図書館「館報」43号発行

7日 南風原高等学校インターンシップ生3名受け入れ 11月9日迄

18日 推薦入学試験

19日 〃

12月5日 小禄高等学校インターンシップ生3名受け入れ 12月7日迄

12月7日 国公立大学図書館協力委員会平成18年度シンポジウム（東京）

8日 整理係 儀間 真太 参加

15日 第3回図書館運営委員会

2007年1月20日 センター入試

21日 〃

26日 県大学図書館協議会講演会・懇親会（琉球大学）

2月10日 一般入学試験A日程

11日 〃

16日 第4回図書館運営委員会

23日 県大学図書館協議会講演会・懇親会（琉球大学）

3月4日 一般入学試験B日程

10日 卒業式

18日 一般入学試験C日程

2006年度 利用状況（2006年4月～2007年3月）

開館日数	276日	図書貸出冊数	12,413冊
入館者数	96,847人	文献複写	1,859件 (17,006枚)
貸出者数	6,619人		